



# 男女共同参画に関する 市民意識調査

— 概要版 —

令和4年1月



霧島市





## 内容

1. 男女平等意識について .....	4
2. 家庭生活について .....	8
3. 地域活動について .....	11
4. 就労について .....	12
5. 教育について .....	14
6. 女性の政策参画について .....	14
7. 人権・暴力について .....	16
8. 男女共同参画に関する用語について .....	18
9. 行政について .....	19

### <調査の概要>

調査地域・・・霧島市全域

調査対象・・・18歳以上の男女 2,100人

抽出方法・・・霧島市住民基本台帳から無作為抽出

調査期間・・・令和3年8月1日～令和3年9月27日

調査方法・・・調査票による本人記入方式(郵送配布・郵送回収による郵送調査法)

回収数(率)・・・993人(47.3%)

- 集計は、百分比の少数点以下第2位は四捨五入しています。したがって、回答比率合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- 文中の選択肢の表記は「」で行っています。

◎回答者属性

回答者 993 人の属性は以下のとおりである。

問1 性別

	サンプル数	性別			
		女性	男性	答えたくない	無回答
全体	993	592	392	6	3
	100.0%	59.6%	39.5%	0.6%	0.3%

問2 年代

	サンプル数	年齢								
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
全体	993	17	74	112	168	156	213	251	2	
	100.0%	1.7%	7.5%	11.3%	16.9%	15.7%	21.5%	25.3%	0.2%	
性別	女性	592	12	45	72	110	91	120	142	0
		100.0%	2.0%	7.6%	12.2%	18.6%	15.4%	20.3%	24.0%	0.0%
	男性	392	4	29	40	57	62	91	108	1
		100.0%	1.0%	7.4%	10.2%	14.5%	15.8%	23.2%	27.6%	0.3%
不明	9	1	0	0	1	3	2	1	1	

問3 職業

	サンプル数	職業					無回答	
		勤め人(役員を含む)	自営業主(家庭内職者を含む)	家族従業者	主婦・主夫	その他の無職(学生を含む)		
全体	993	530	55	20	209	171	8	
	100.0%	53.4%	5.5%	2.0%	21.0%	17.2%	0.8%	
性別	女性	592	288	26	18	192	64	4
		100.0%	48.6%	4.4%	3.0%	32.4%	10.8%	0.7%
	男性	392	237	29	2	16	105	3
		100.0%	60.5%	7.4%	0.5%	4.1%	26.8%	0.8%
不明	9	5	0	0	1	2	1	

問4 就労状況

※問3で「1. 勤め人(役員を含む)」と答えた方のみ

	サンプル数	就労状況			無回答	
		常勤(フルタイム)	非常勤(パート、アルバイト、嘱託その他)	その他		
全体	530	327	190	5	8	
	100.0%	61.7%	35.8%	0.9%	1.5%	
性別	女性	288	127	157	1	3
		100.0%	44.1%	54.5%	0.3%	1.0%
	男性	237	197	31	4	5
		100.0%	83.1%	13.1%	1.7%	2.1%
不明	5	3	2	0	0	

問5 婚姻状況

	サンプル数	婚姻状況				
		結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)	離別	死別	結婚していない	無回答
全体	993	744	53	63	132	1
	100.0%	74.9%	5.3%	6.3%	13.3%	0.1%
性別	女性	592	44	54	65	1
		100.0%	7.4%	9.1%	11.0%	0.2%
	男性	392	9	8	65	0
		100.0%	2.3%	2.0%	16.6%	0.0%
不明	9	6	0	1	2	0

問6 パートナーとの就労形態

※問5で「1. 結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)」と答えた方のみ

	サンプル数	パートナーとの就労形態				無回答
		どちらも仕事をしている(パートタイム・家庭内職を含む)	自分だけが仕事をしている	パートナーだけが仕事をしている	どちらも仕事をしていない	
全体	744	401	85	91	154	13
	100.0%	53.9%	11.4%	12.2%	20.7%	1.7%
性別	女性	428	23	70	85	9
		100.0%	5.4%	16.4%	19.9%	2.1%
	男性	310	61	21	67	4
		100.0%	19.7%	6.8%	21.6%	1.3%
不明	6	3	1	0	2	0

問7 子どもの有無

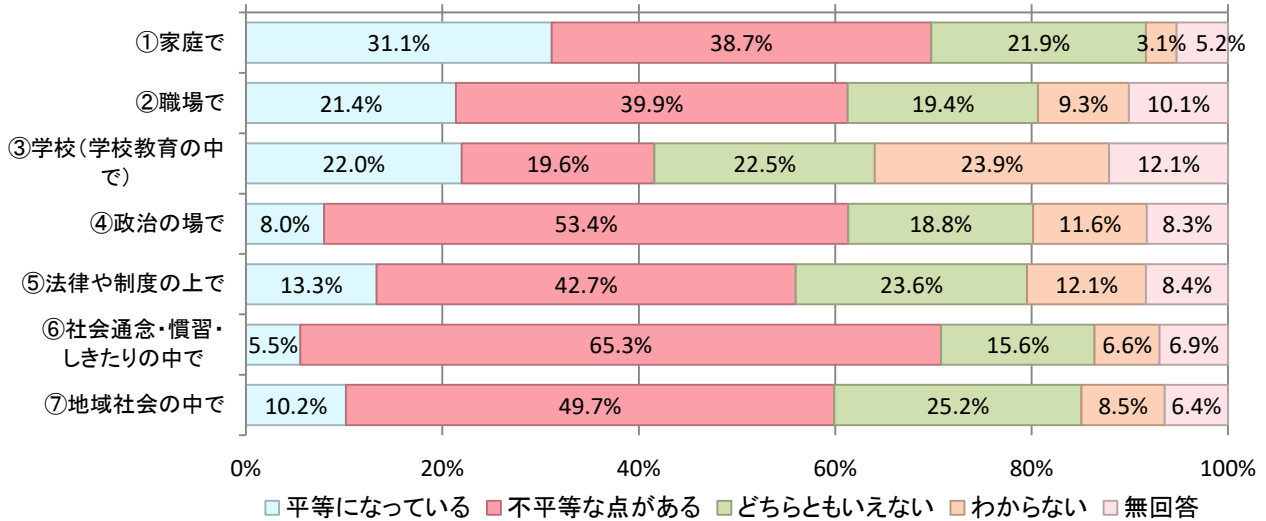
	サンプル数	子どもの有無		
		いる	いない	無回答
全体	993	777	203	13
	100.0%	78.2%	20.4%	1.3%
性別	女性	592	108	5
		100.0%	18.2%	0.8%
	男性	392	92	8
		100.0%	23.5%	2.0%
不明	9	6	3	0

# 1. 男女平等意識について

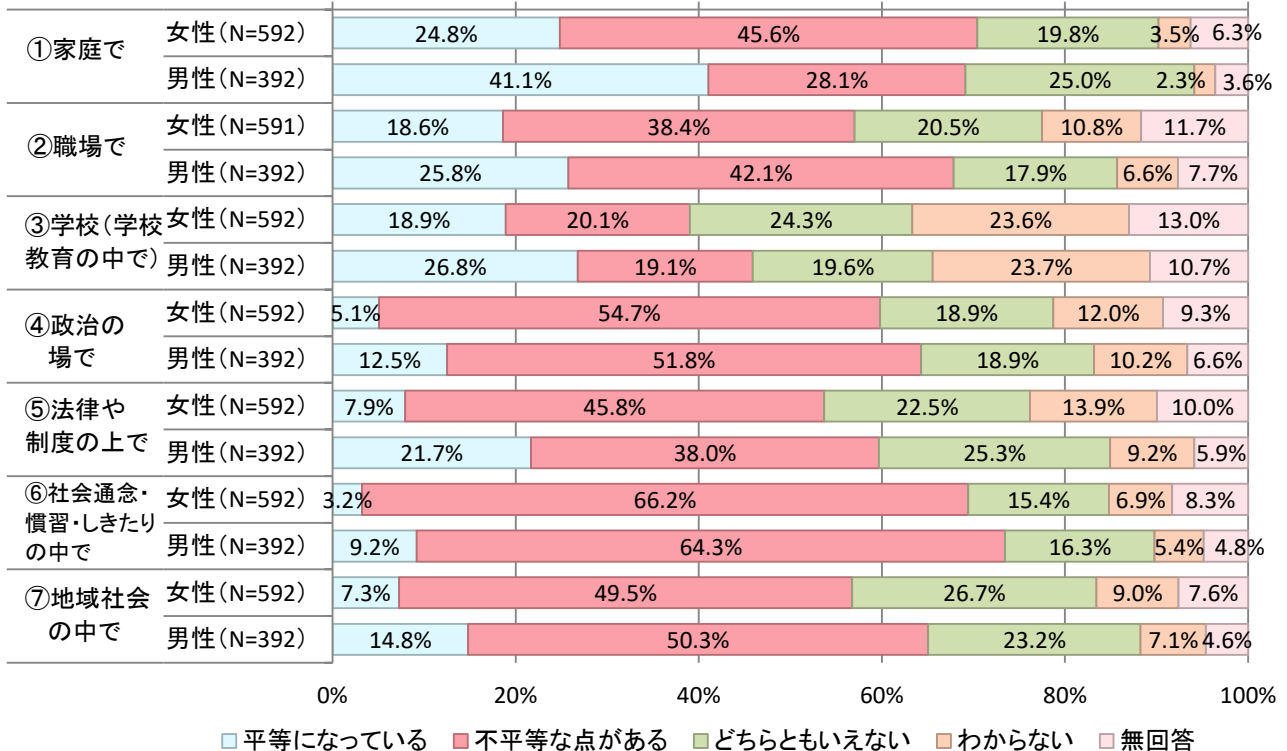
様々な分野における男女の地位の平等意識についてみると、「平等になっている」が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育の中で)」のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」が「平等になっている」を上回っている。特に、「④政治の場で」「⑥社会通念・慣習・しきたりの中で」の「平等になっている」の割合が1割未満となっている。

性別でみると、すべての項目において、男性の「平等になっている」の割合が女性と比較して高くなっている。

様々な分野における男女の地位の平等意識(全体) (N=993)

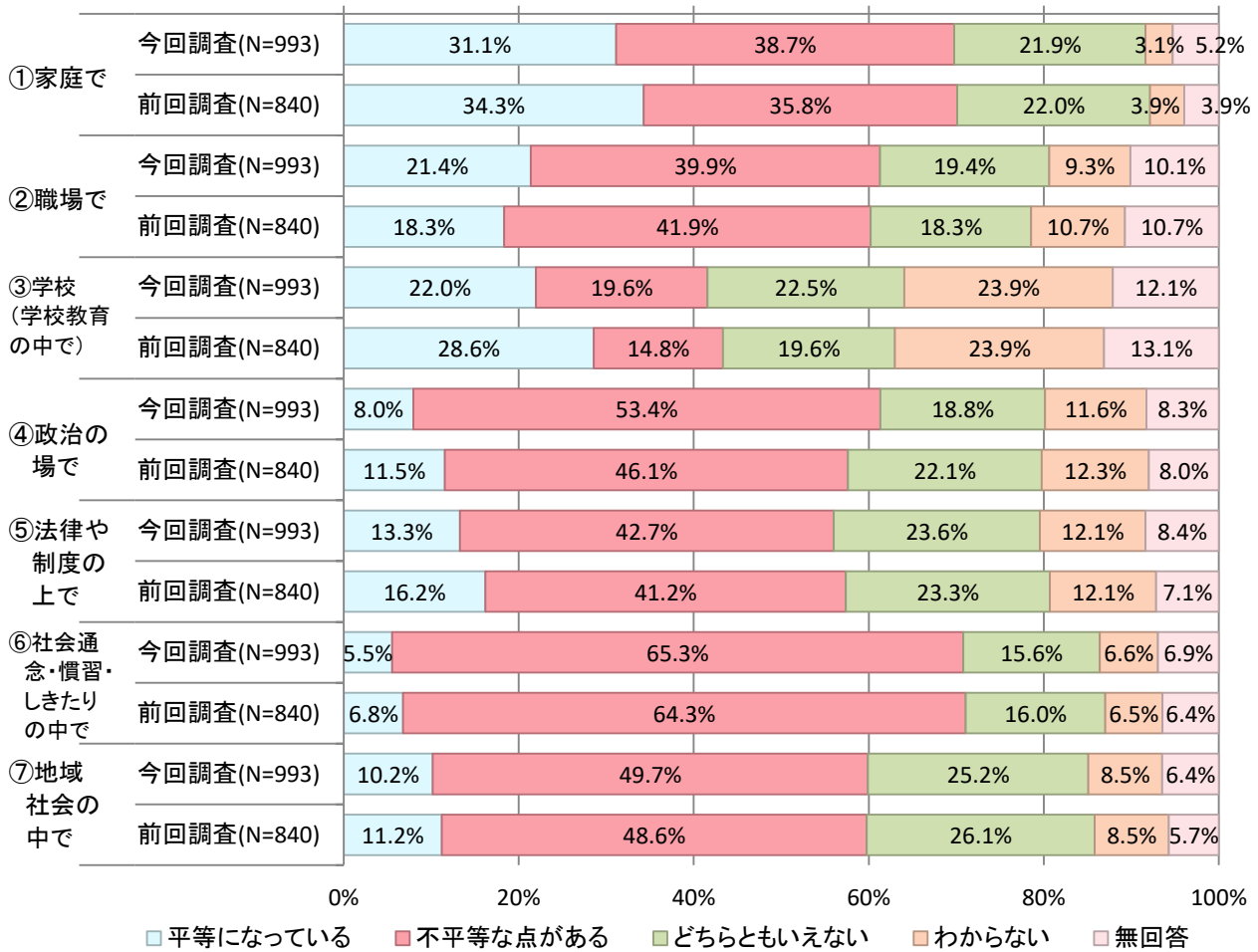


様々な分野における男女の地位の平等意識(性別)



前回調査と比較すると、「不平等な点がある」の割合が減少しているのは「②職場」のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」の割合が増加傾向になっている。

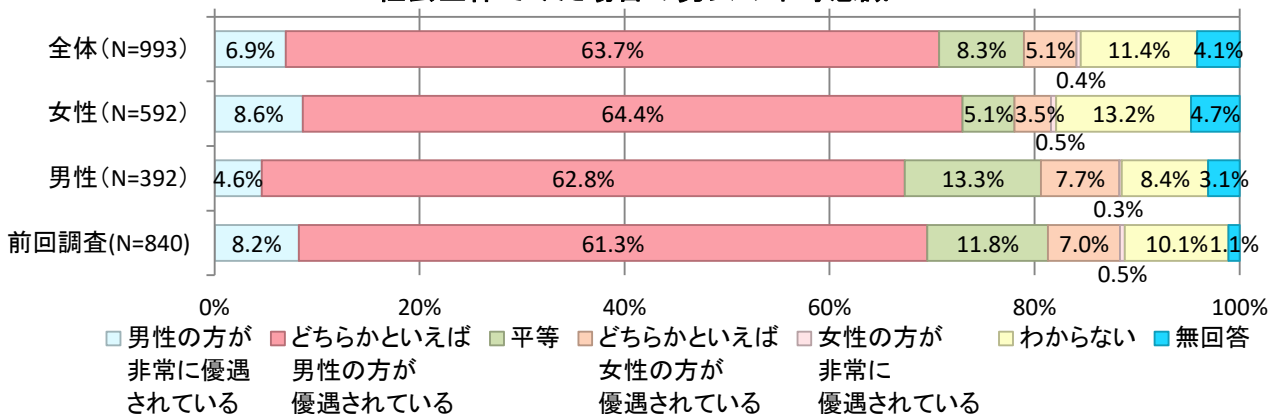
様々な分野における男女の地位の平等意識(前回分比較)



社会全体でみた男女の平等意識については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(63.7%)の割合が最も高く、次いで、「わからない」(11.4%)、「平等」(8.3%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加傾向にあり、「平等」の割合が減少傾向になっている。

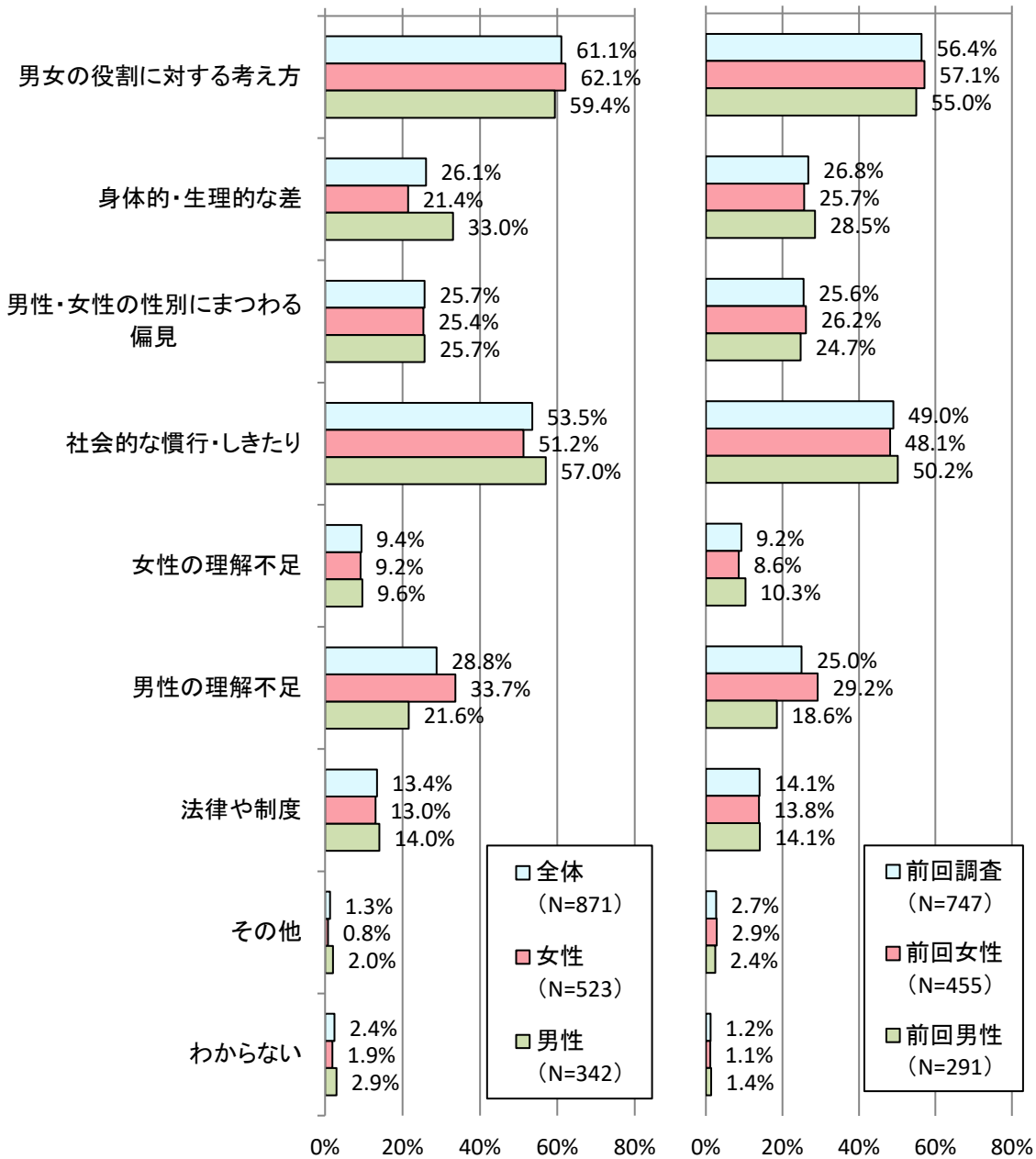
社会全体でみた場合の男女の平等意識



男女が平等でない原因についてみると、全体では「男女の役割に対する考え方」(61.1%)が最も高く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(53.5%)、「男性の理解不足」(28.8%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「男女の役割に対する考え方」(今回調査:61.1%、前回調査:56.4%)、「社会的な慣行・しきたり」(今回調査:53.5%、前回調査:49.0%)の割合が増加傾向になっている。

男女が平等でない原因

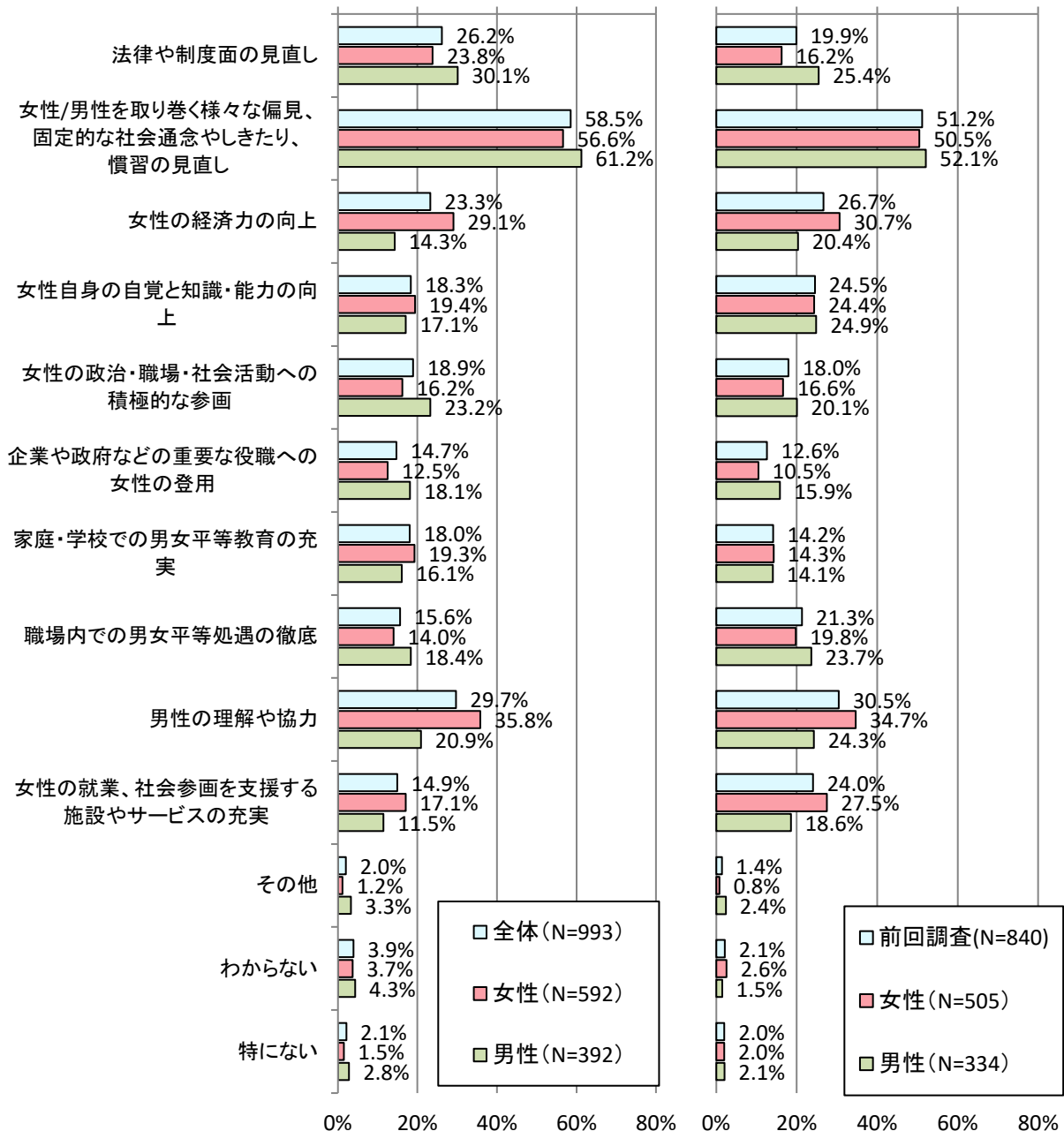




男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性/男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(58.5%)が最も高く、次いで「男性の理解や協力」(29.7%)、「法律や制度面の見直し」(26.2%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「法律や制度面の見直し」「女性/男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」の割合が増加傾向にあり、「女性自身の自覚と知識・能力の向上」「職場内での男女平等処遇の徹底」「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実」の割合が減少傾向にある。

男女が平等になるために重要なこと

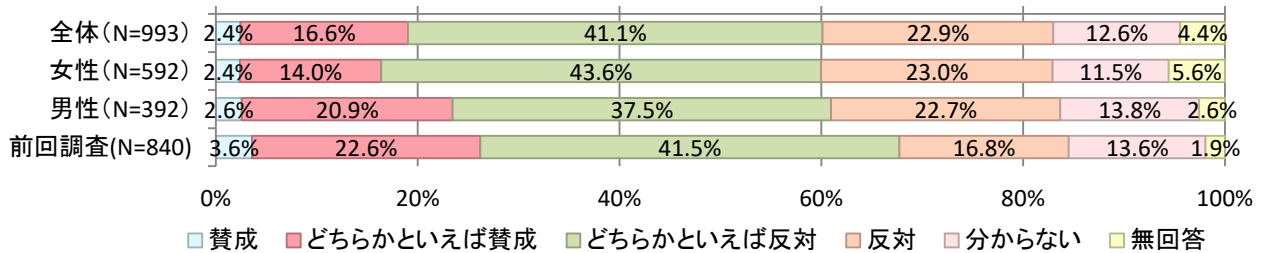


## 2. 家庭生活について

「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では『賛成』『賛成』+「どちらかといえば賛成」が19.0%、『反対』『反対』+「どちらかといえば反対」が64.0%となっており、『反対』が『賛成』を上回っている。

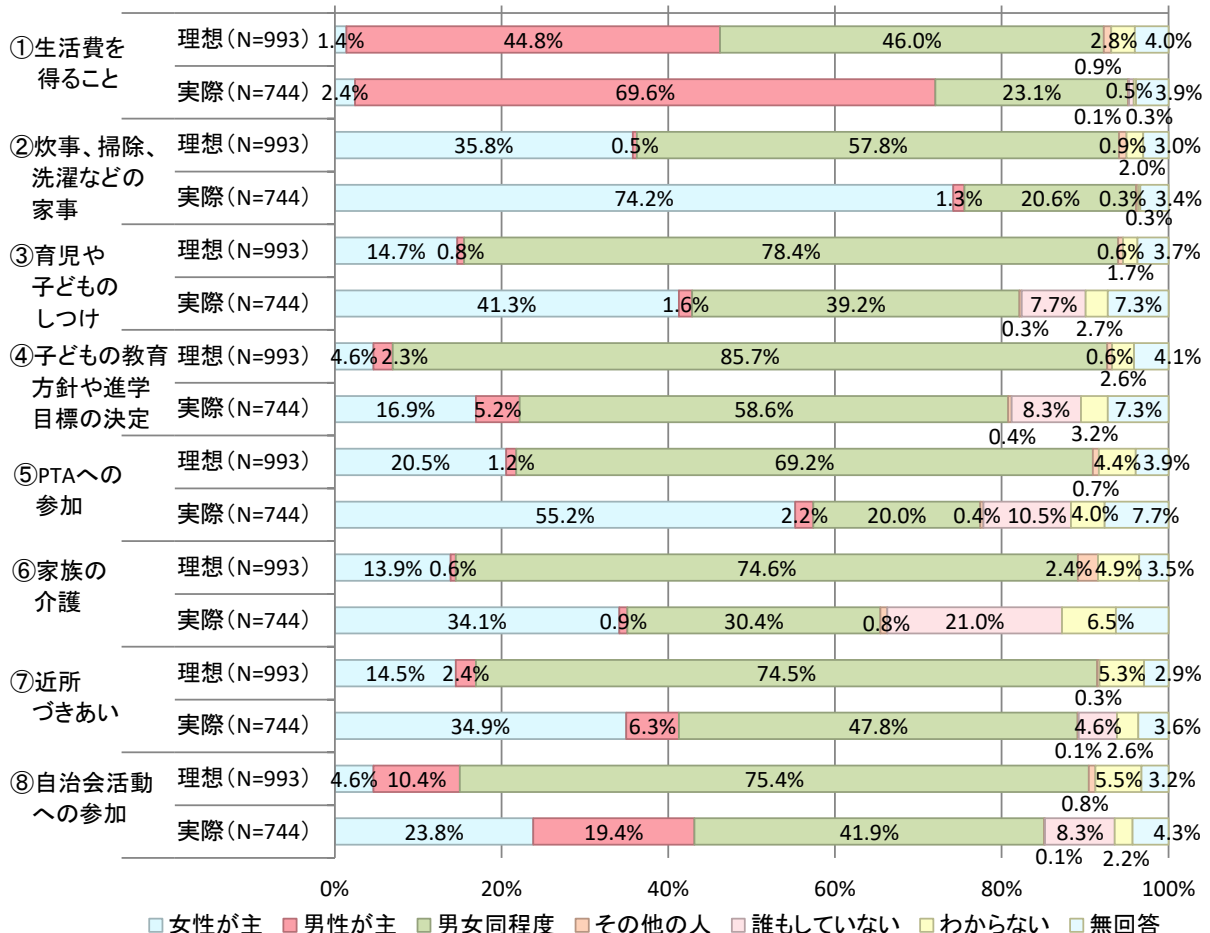
性別にみると、『賛成』の割合が、女性:16.4%、男性:23.5%と、男性が女性より高くなっている。前回調査と比較すると、『賛成』の割合が、今回調査:19.0%、前回調査:26.2%と減少傾向となっている。一方、『反対』の割合は、今回調査:64.0%、前回調査:58.3%と増加傾向になっている。

性別役割分担に対する考え方



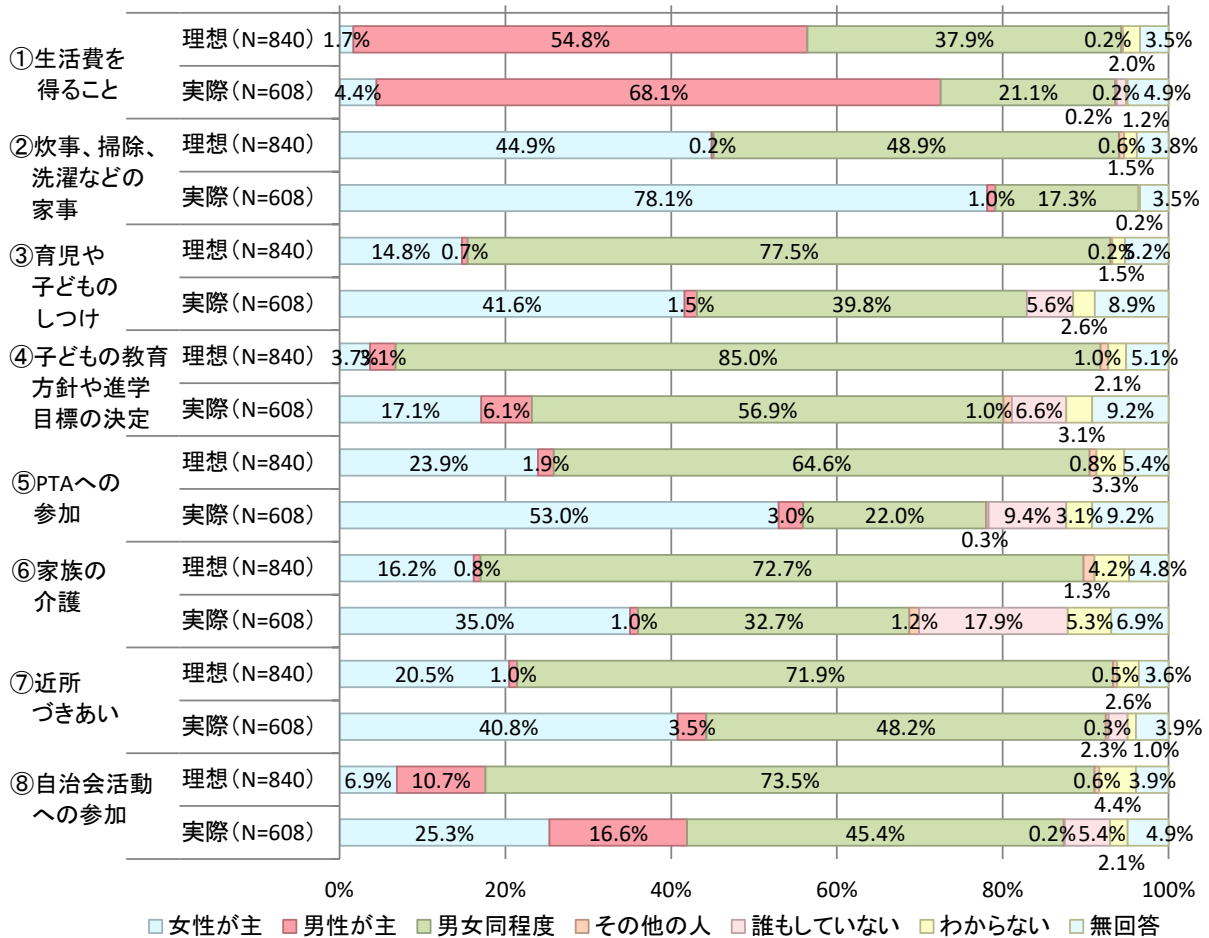
日常生活における役割分担については、理想では「①生活費を得ること」「②炊事、掃除、洗濯などの家事」を除いて「男女同程度」が6割を超えている。実際では「女性が主」の割合が「②炊事、掃除、洗濯などの家事」(74.2%)では7割を超えており、「③育児や子どものしつけ」(41.3%)「⑤PTAへの参加」(55.2%)では4割を超えている。

日常生活における役割分担の理想と実際



前回調査分と比較すると、理想の「①生活費を得ること」の「男性が主」の割合が減少し、「夫婦同程度」の割合が増加傾向になっている。また、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」では理想と実際ともに「女性が主」の割合が増加傾向になっている。

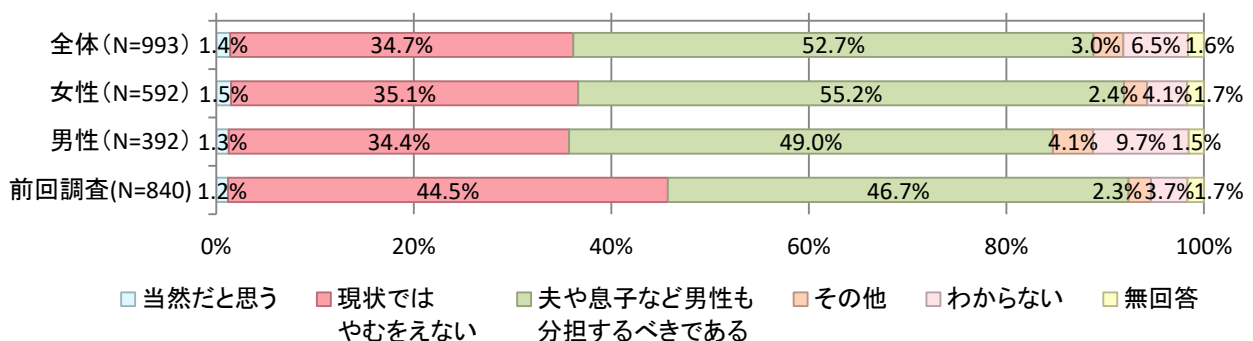
日常生活における役割分担の理想と実際(前回調査分)



家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることについては、全体では「夫や息子など男性も分担すべきである」(52.7%)の割合が最も高く、次いで「現状ではやむをえない」(34.7%)となっている。

前回調査と比較すると、「夫や息子など男性も分担すべきである」(今回調査:52.7%、前回調査:46.7%)の割合は増加傾向にあり、一方「現状ではやむをえない」(今回調査:34.7%、前回調査:44.5%)の割合が減少傾向になっている。

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

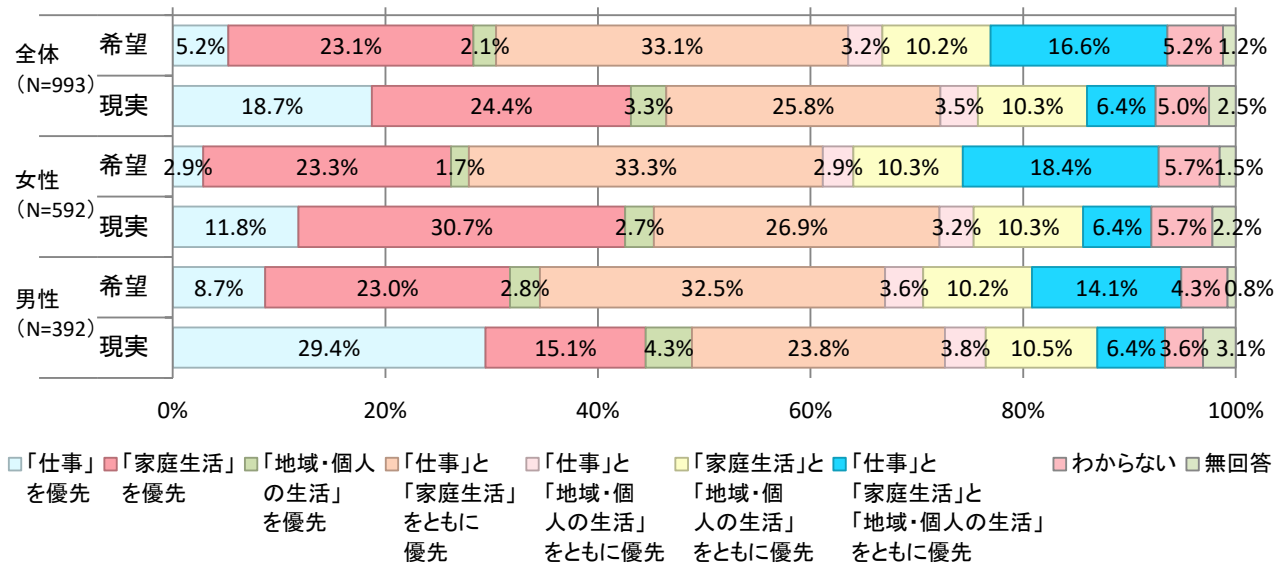


「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の優先度の希望と現実についてみると、「仕事」を優先」の割合は希望(5.2%)に対して現実(18.7%)が高くなっている。「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」の割合では、希望(16.6%)より現実(6.4%)が低くなっている。

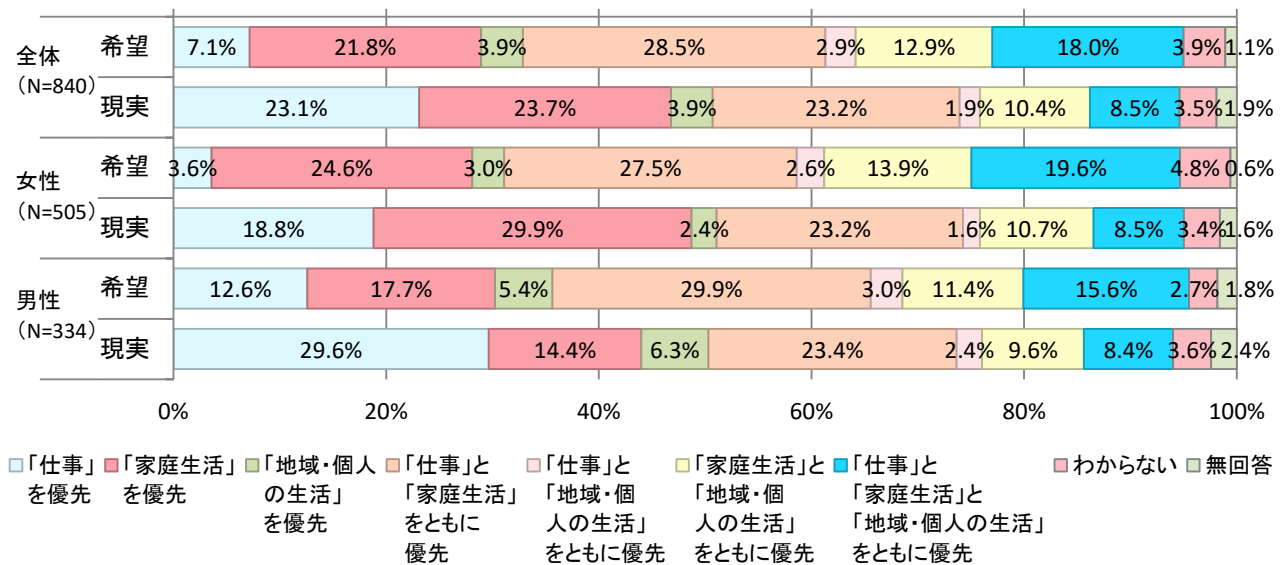
性別にみると、「家庭生活」を優先」については、女性は希望(23.3%)より現実(30.7%)が高くなっている。一方、男性の「家庭生活」を優先」の割合は、希望(23.0%)が現実(15.1%)を上回っている。

前回調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」の希望(今回調査: 16.6%、前回調査:18.0%)、現実(今回調査:6.4%、前回調査:8.5%)の割合が減少傾向にあり、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の希望(今回調査:33.1%、前回調査:28.5%)、現実(今回調査: 25.8%、前回調査:23.2%)の割合が増加傾向になっている。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方(希望と現実)



「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方(希望と現実) (前回調査分)

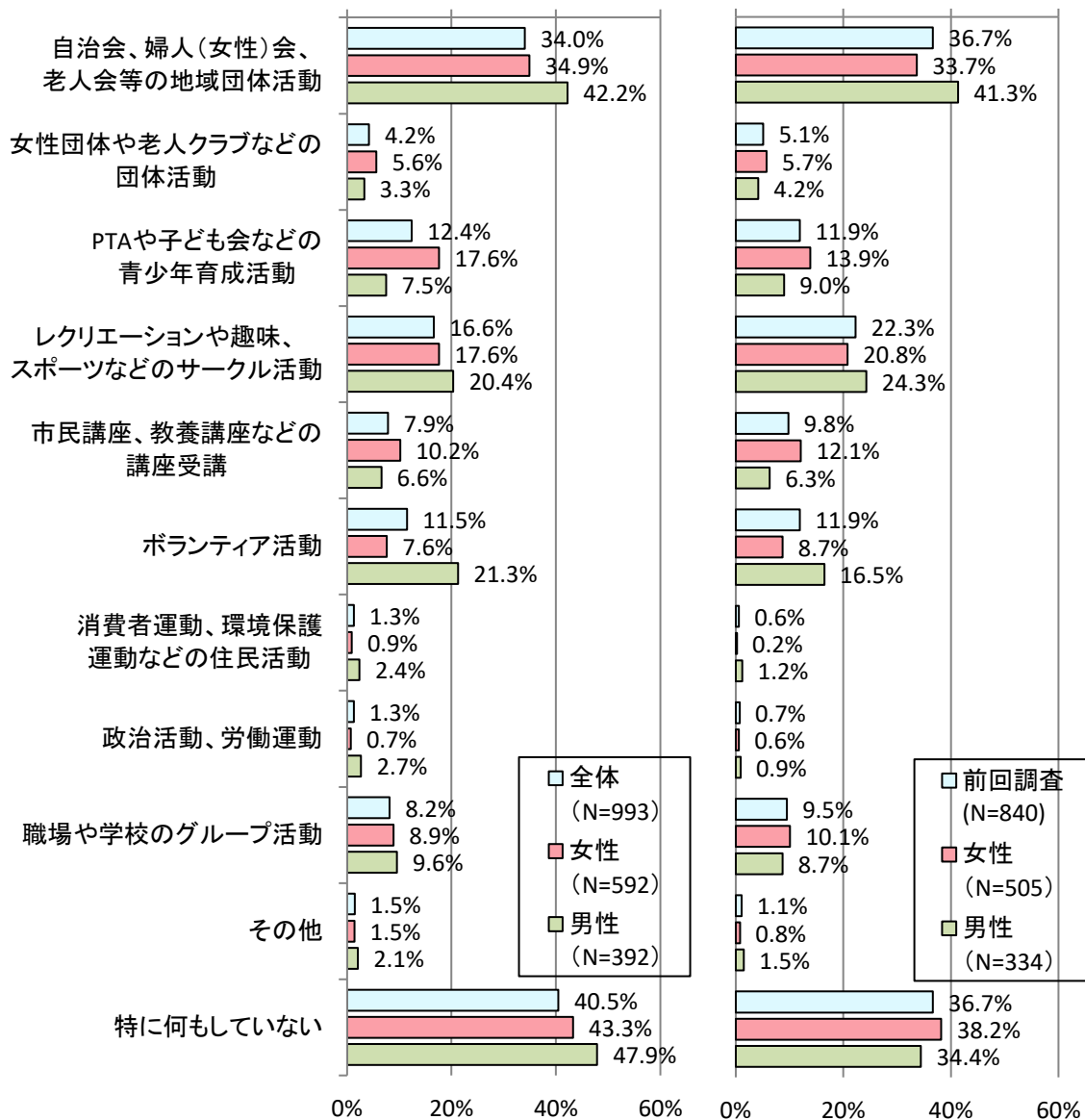


### 3. 地域活動について

地域活動への参加状況については、全体では「特に何もしていない」(40.5%)の割合が最も高く、次いで「自治会、婦人(女性)会、老人会等の地域団体活動」(34.0%)となっている。

前回調査と比較すると、「自治会、婦人(女性)会、老人会等の地域団体活動」(今回調査:34.0%、前回調査:36.7%)「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」(今回調査:16.6%、前回調査:22.3%)の割合は減少傾向になっている。一方、男性の「ボランティア活動」(今回調査:21.3%、前回調査:16.5%)の割合は増加傾向になっている。

社会活動・地域活動への参加状況

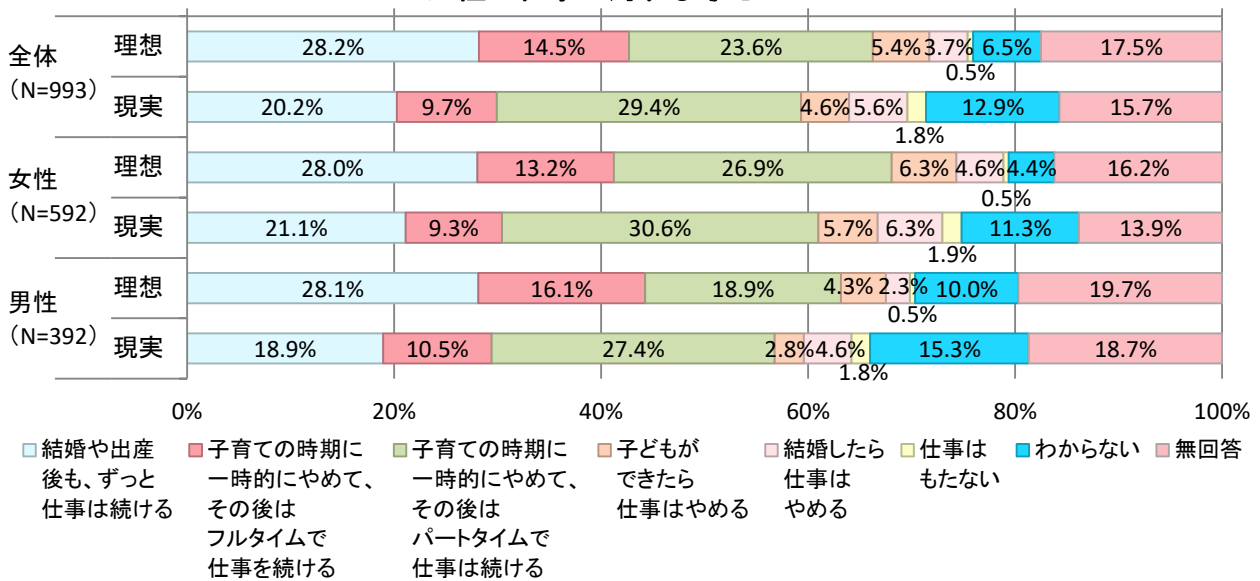


## 4. 就労について

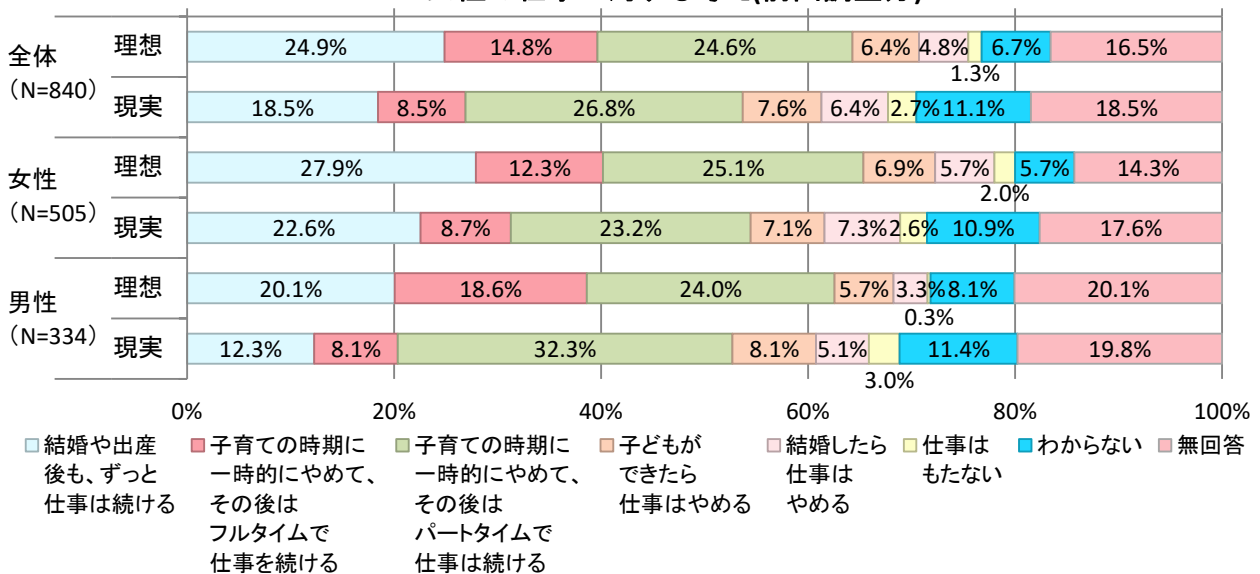
女性の仕事に対する考えについてみると、全体では、理想では「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(28.2%)の割合が最も高く、現実では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(29.4%)の割合が最も高くなっている。また、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」の割合は理想(28.2%)に対して現実(20.2%)が低くなっている。

前回調査と比較すると、現実の「子どもができれば仕事はやめる」(今回調査:4.6%、前回調査:7.6%)の割合が減少傾向にあり、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(今回調査:29.4%、前回調査:26.8%)の割合が増加傾向になっている。

### 女性の仕事に対する考え



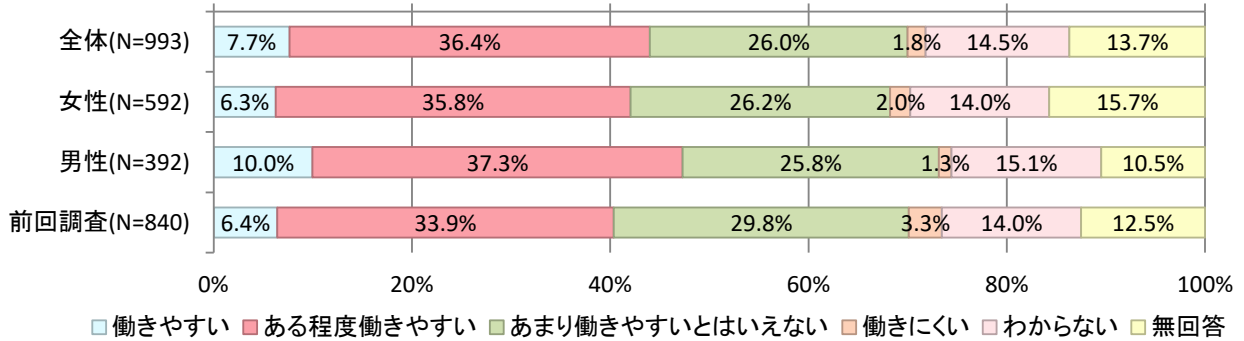
### 女性の仕事に対する考え(前回調査分)



社会全体としての女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では『働きやすい』(「働きやすい」+「ある程度働きやすい」)が44.1%、『働きにくい』(「働きにくい」+「あまり働きやすいとはいえない」)が27.8%で、『働きやすい』と答えた割合が『働きにくい』答えた割合より高くなっている。

前回調査と比較すると、『働きやすい』(今回調査:44.1%、前回調査:40.3%)の割合は増加傾向にあり、『働きにくい』(今回調査:27.8%、前回調査:33.1%)の割合は減少傾向になっている。

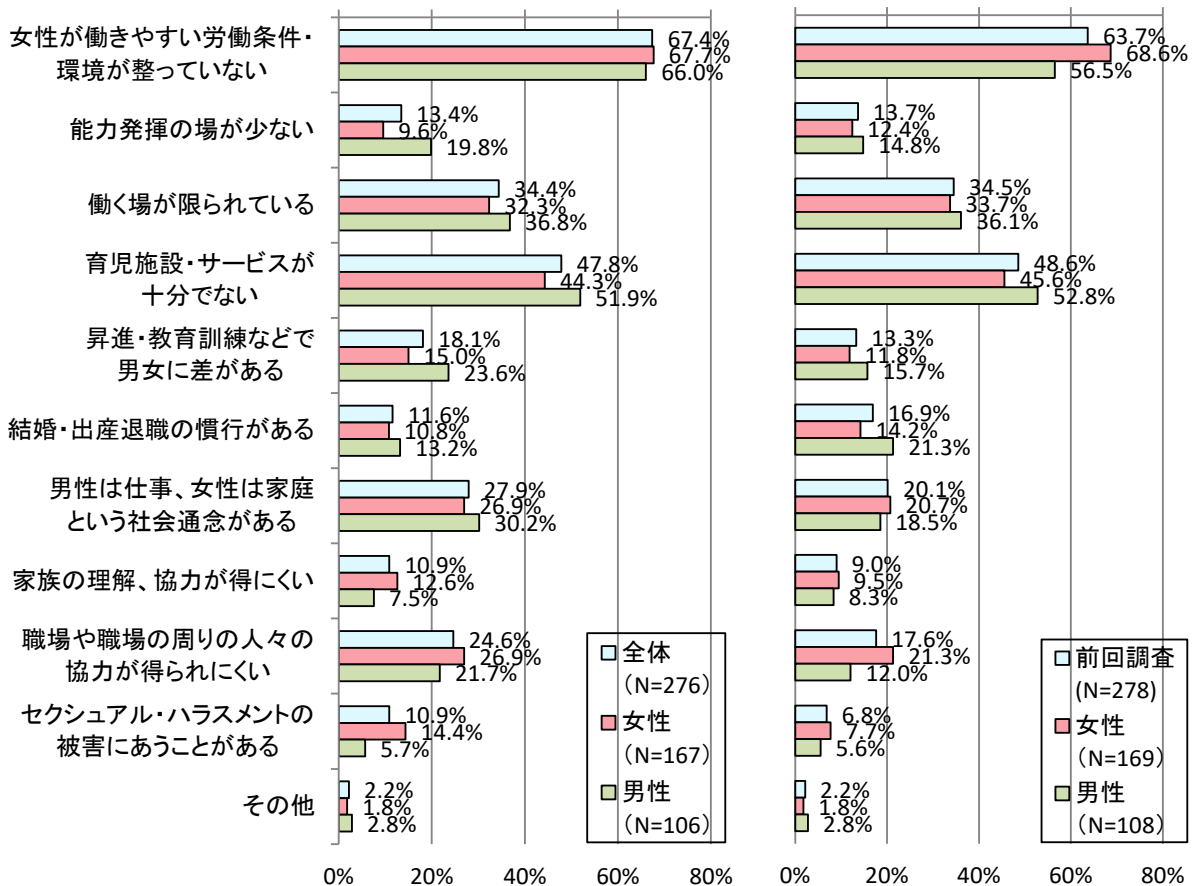
### 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え方



女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」(67.4%)が最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」(47.8%)、「働く場が限られている」(34.4%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある」(今回調査:27.9%、前回調査:20.1%)、「職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい」(今回調査:24.6%、前回調査:17.6%)の割合が増加傾向になっている。

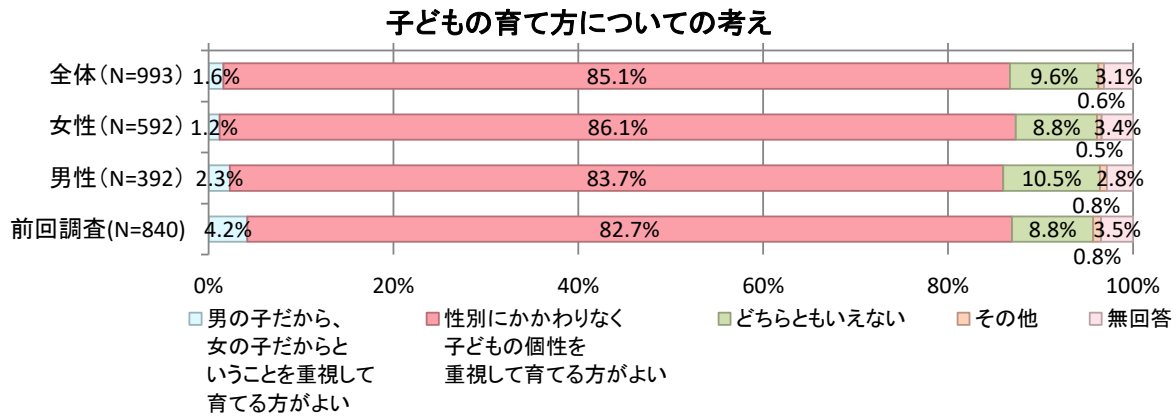
### 女性が働きにくいと思う理由



## 5. 教育について

子どもの育て方についての考えについてみると、全体、男女ともに「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」の割合が最も多く、8割を超えている。

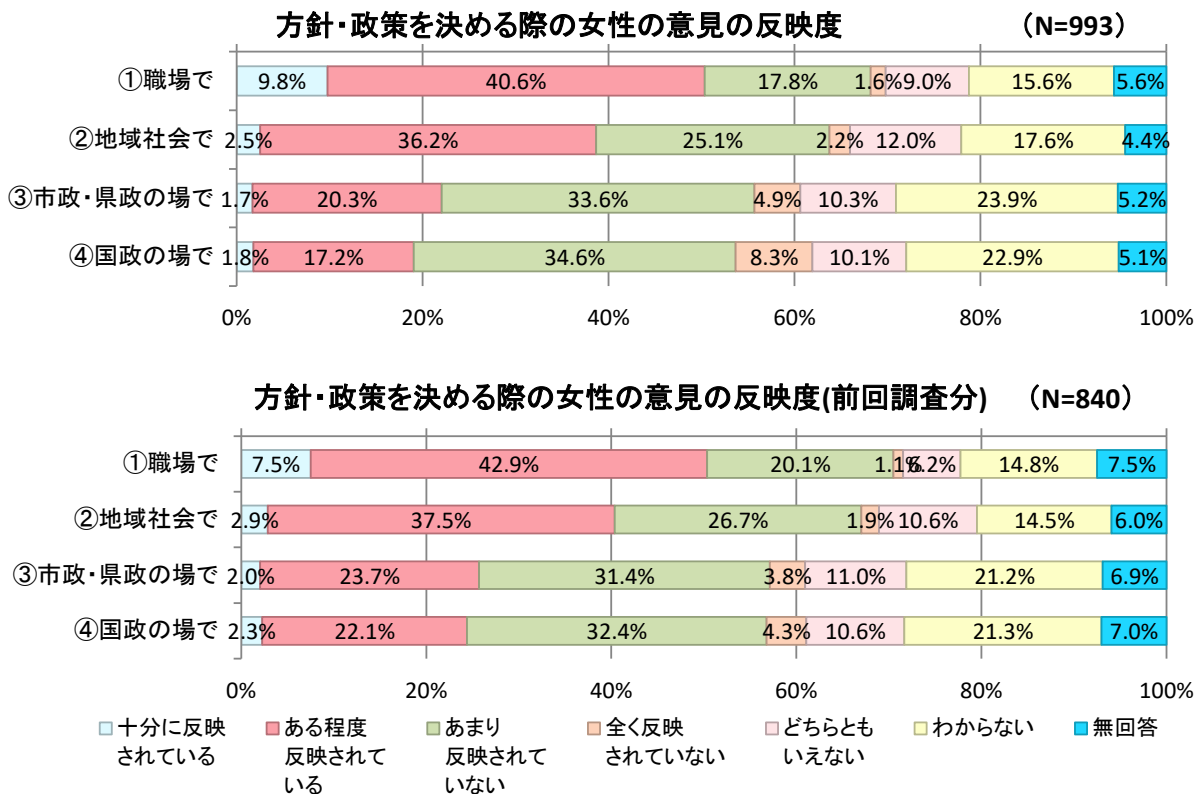
前回調査と比較すると、「男の子だから、女の子だからということをも重視して育てる方がよい」(今回調査:1.6%、前回調査:4.2%)の割合は減少傾向になっている。



## 6. 女性の政策参画について

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、「③市政・県政の場で」「④国政の場で」において『反映されていない』(「あまり反映されていない」+「全く反映されていない」)と答えた人の割合が『反映されている』(「十分に反映されている」+「ある程度反映されている」)を上回っている。

前回調査と比較すると、「①職場で」以外の『反映されている』の割合が減少傾向になっている。



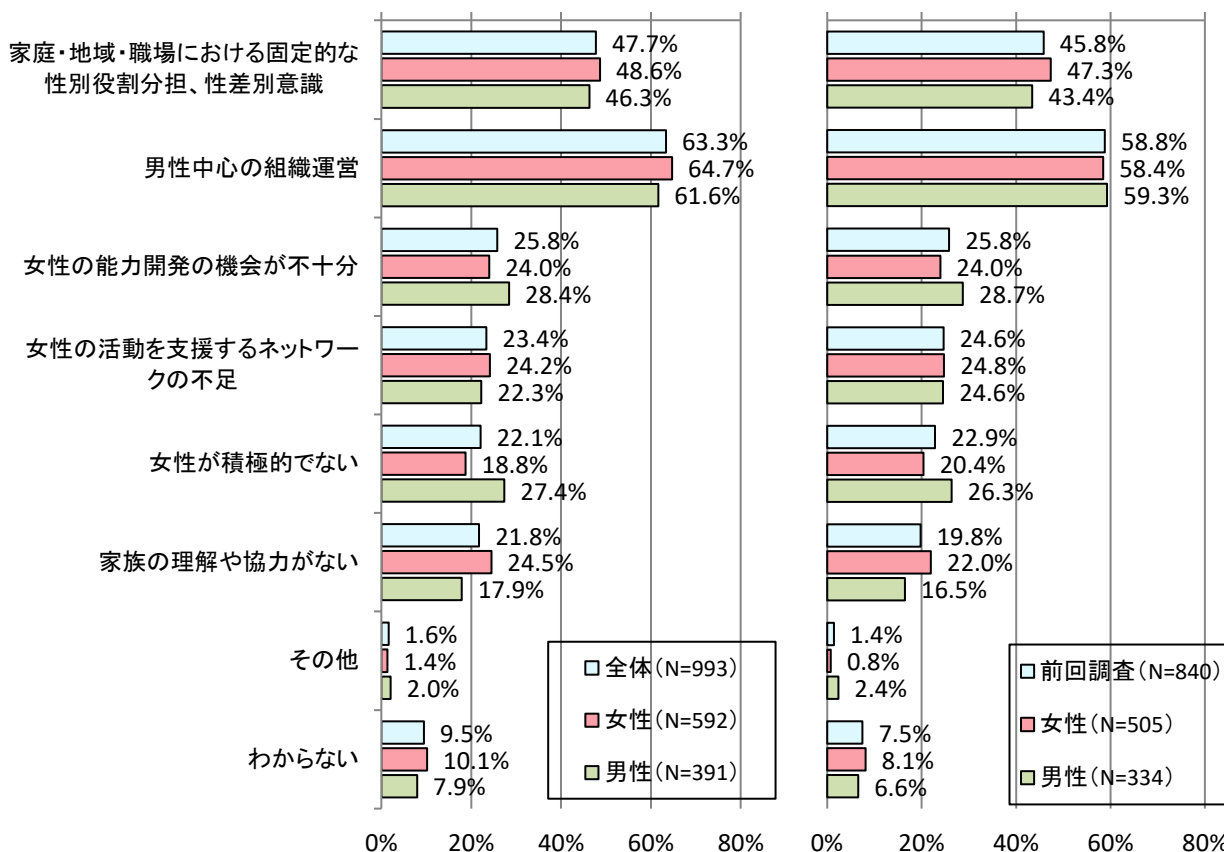


政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性中心の組織運営」(63.3%)の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(47.7%)となっている。

性別にみると「女性が積極的でない」(女性:18.8%、男性:27.4%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「男性中心の組織運営」(今回調査:63.3%、前回調査:58.8%)の割合は増加傾向になっている。

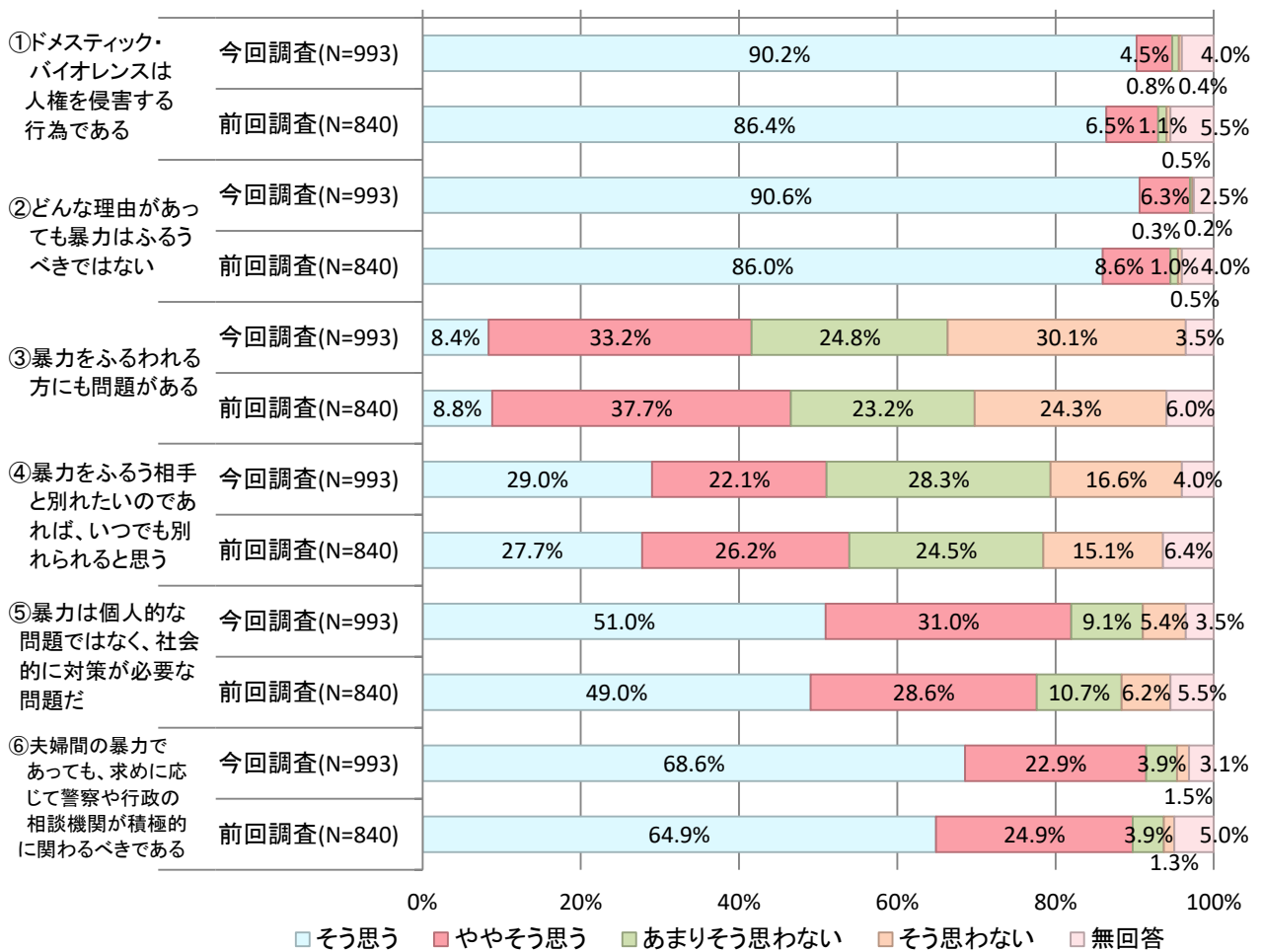
政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由



## 7. 人権・暴力について

ドメスティック・バイオレンス(DV)に対する考え方についてみると、全体では『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」(96.9%)が最も高く、次いで「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」(94.7%)、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の機関が積極的に関わるべきである」(91.5%)となっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」という考え方には4割(41.6%)の人が『そう思う』と答えている。

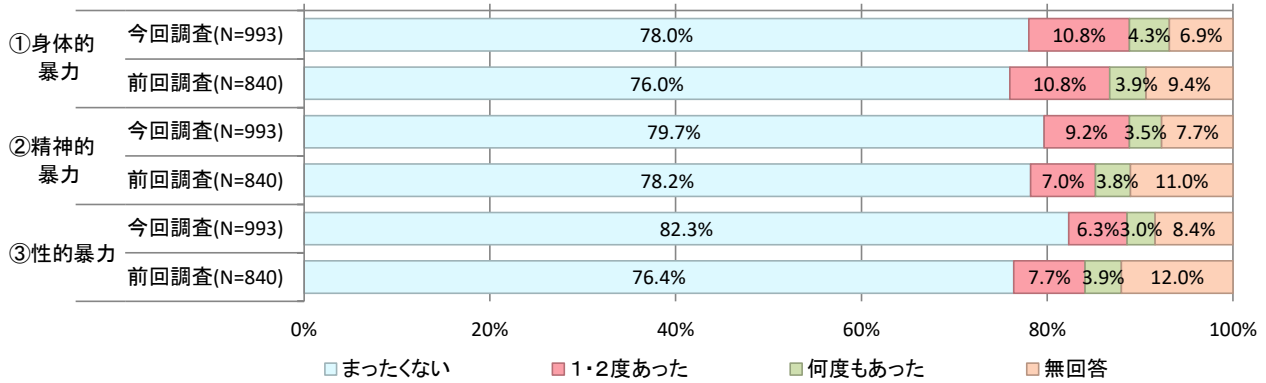
ドメスティック・バイオレンスに対する考え方



配偶者等からのDVの被害経験の有無についてみると、『あった』(「1・2度あった」+「何度もあった」)と答えた割合は「①身体的暴力」(15.1%)の割合が最も高く、次いで「②精神的暴力」(12.7%)となっている。

前回調査と比較すると、「①身体的暴力」(今回調査:15.1%、前回調査:14.7%)、「②精神的暴力」(今回調査:12.7%、前回調査:10.8%)の割合は増加傾向にあり、「③性的暴力」(今回調査:9.3%、前回調査:11.6%)の割合は減少傾向になっている。

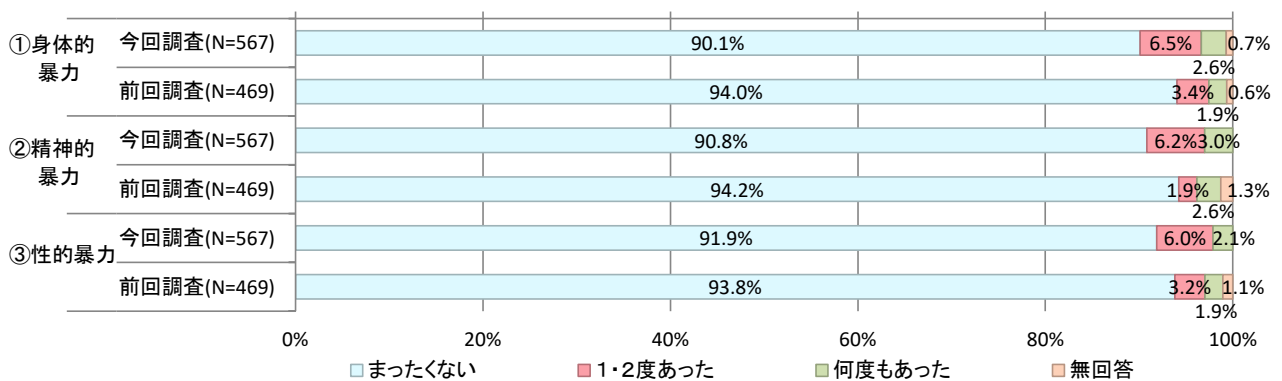
配偶者からの被害経験(暴力の種類別)



10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無についてみると、『あった』(「1・2度あった」+「何度もあった」)と答えた割合は「①身体的暴力」(9.1%)、「②精神的暴力」(9.2%)が高くなっている。

前回調査と比較すると、すべての項目で『あった』の割合が増加傾向になっている。

10歳代から20歳代における交際相手からの被害経験(暴力の種類別)



## 8. 男女共同参画に関する用語について

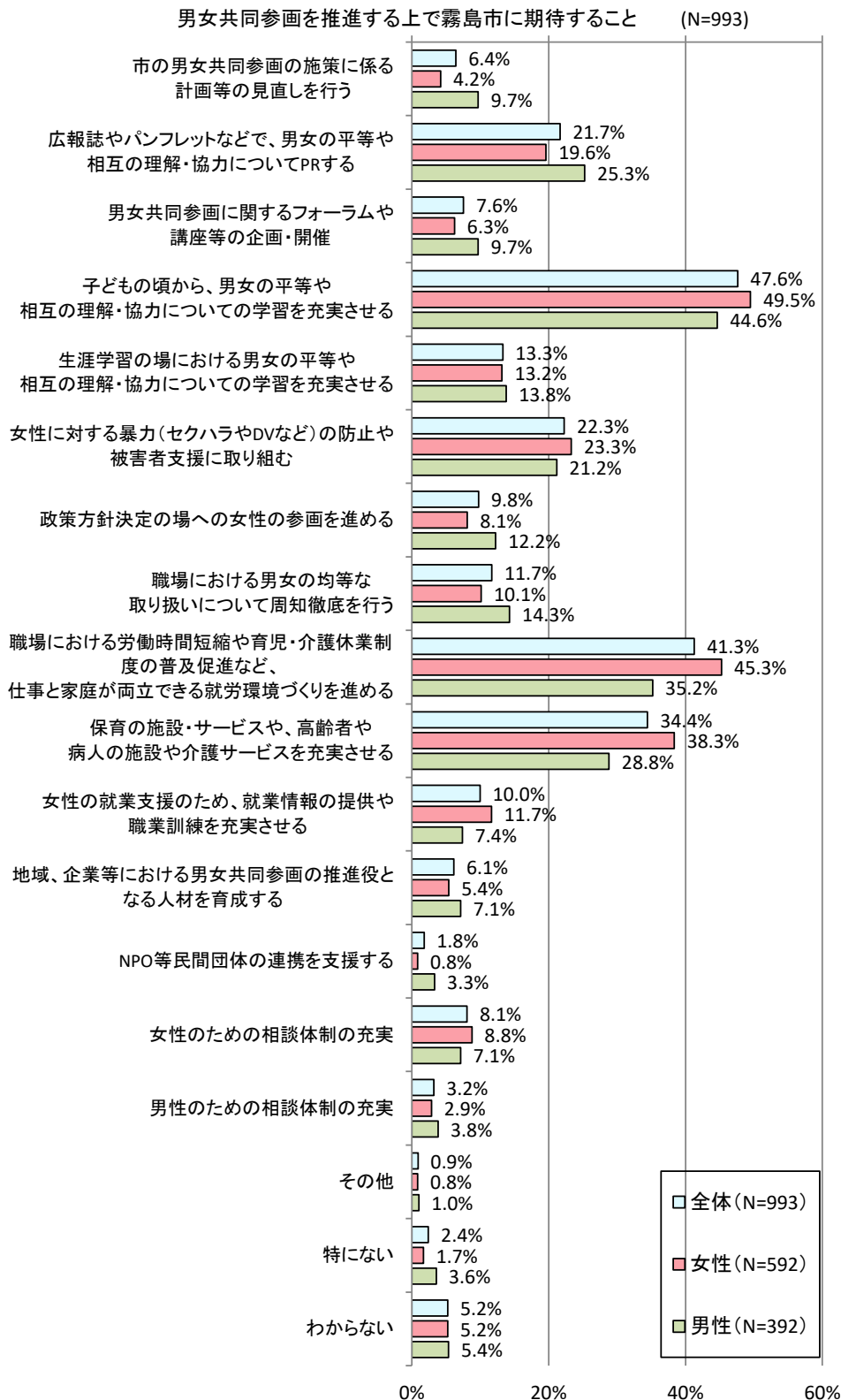
用語の認知度についてみると、「言葉も内容もよく知っている」の割合が最も高い項目は「⑧育児・介護休業法」(26.1%)となっている。一方、「言葉も内容も知らない」の割合が最も高い項目は「②アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」(69.7%)となっている。

前回調査と比較すると、「①ジェンダー(社会的性別)」の「言葉も内容も知らない」の割合が減少し、「言葉も内容もよく知っている」「言葉は知っており、内容も少し知っている」の割合が増加しており、言葉の認知度が高くなっていることがわかる。



## 9. 行政について

男女共同参画を推進するうえで霧島市に期待することについてみると、全体では「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(47.6%)の割合が最も高く、次いで「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(41.3%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(34.4%)の順となっている。



前回調査分と比較すると、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(今回調査:47.6%、前回調査:40.1%)の割合が増加傾向にあり、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(今回調査:34.4%、前回調査:39.9%)の割合が減少傾向になっている。

